

## 難波西鶴と

## 海の道

【62】

森田 雅也

今回は「海の道」に対する雑感です。

前回は「長崎商人」の話

でした。今の大阪と長崎は、

いろいろな交通網で結ばれ

ていますが、当時は「海の

道」しかありませんでした。

当たり前のこととおしか

りを受けるかも知れませんが、

今日では、これに「空

の道」が加わっているの

です。

その「空の道」は世界に

広がる関西空港、国内を網

羅する伊丹空港、さらに神

戸空港まであるのですから、

流通の範囲は計り知れ

ないほど広がっています。

これは「空輸」と呼ばれ

ますが、その「海の道」と

似た流通機能のために、「空

の道」という考えの基点に

「空港」という船の思想が

入り込んだのでしよう。

「空港」という語の起源

を知りませんが、英語の A

ir (空) port (港)「一

り「うまや」のイメージも

の直訳でしょうね。飛行機

の離発着だけなら「飛行場」

ですみます。第二次世界大

戦の攻防地は常に「飛行場」

でしたが、まだ「空港」と

は呼んでいませんでした

ね。ちなみに、「空港」と

いう語は、戦前から使用

されていたとようです。

江戸時代の「川の道」「海

の道」は、いさなり「空の

道」に奪われたものではあり

ません。もちろん、車社会

た、江戸時代の「港」の多

もありましたが、それより先に明治と共に「鉄道」という画期的なものの出現に衰退を余儀なくされたのです。

全国に鉄道網が広がる

と、「港」に代わる「駅」

が出現しました。

「駅」は「statio

n」ですが、「statio

」の語源からは発着場べ

らしいの意味でしょう。しか

し、明治の日本人にとって

「駅」は「えき」というよ

うイメージも

強かったでしょう。

駅制は古代の律令制で中

央政府と地方との連絡・通

信のために設けられた交通

制度ですが、「うまや」は

三十里(当時の単位では約

16キロメートル)ごとに置

かれた施設でした。

明治になって、日本は

「川の道」の周辺が街として

栄えることになるのです

が、鉄道が敷設されなかつ

た、江戸時代の「港」の多

## 「空の道」「鉄道」の普及

くは寂れていきました。

先日、福井の三国港に調

査に行ってきました。三国

港は明治になっても繁盛し

ましたが、北前船で栄えた

往時には戻りませんでした。

資料館で明治初期の三

国港の人々の職業を地図に

入れ表示していましたが、

当時のにぎやかさが伝わっ

てきます。

千石船を1隻遊る注文が

あれば、多くの船大工さん

が必要です。その人たちが

使う独特の鉋などの工具

やくぎを作る鍛冶屋さん、

樽屋さん、帆布屋さん等々、

船に携わる職業のたくさん

の人々が潤います。そのこ

ろの活気あふれる港町の様

子が目に浮かんできます。

でも、「海の道」が消え

たとき、彼らはどうなった

のでしょうか。文明の波は

むいむいすね。

(関西学院大学文学部文  
学言語学教授)

取って代わられた「海の道」